住宅改修が必要な理由書（P2）

<P1の「総合的状況」を踏まえて、①改善をしようとしている生活動作②具体的な困難な状況③改修目的と改修の方針④改修項目を具体的に記入してください。>

活動	① 改善をしようとしている生活動作	⇒ ② ①の具体的な困難な状況（…なので…で困っている）を記入してください	⇒ ③ 改修目的・期待効果をチェックした上で、改修の方針（…することで…が改善できる）を記入してください	⇒ ④ 改修項目（改修箇所）
排泄	□トイレまでの移動 □トイレ出入口の出入 （扉の開閉を含む） □便器からの立ち座り （移乗を含む） □衣服の着脱 □排泄時の姿勢保持 □後 □そ		□できなかったことをできるようにする □転倒等の防止、安全の確保 □動作の容易性の確保 □利用者の精神的負担 □介護者の負担の軽 □その他（	□手すりの取り付け （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □段差の （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □引き戸等 （　　） （　　） （　　） （　　） （　　） □便器の （　　） （　　） （　　） （　　） □滑り防止等のための床材の変更 （　　） （　　） （　　） （　　） □その他 （　　） （　　） （　　）
入浴	□浴 □衣 □浴 （扉 □浴 （立 □洗 （洗 □浴 （立 □浴 □そ		□できなかったことを □転倒等の防止、安 □動作の容易性の確 □利用者の精神的負 □介護者の負担の軽 □その他（	
外出	□出 □上 □車 □履物の着脱 □出入口の出入 （扉の開閉を含む） □出入口から敷地外までの屋外移動 □その他（　　）		□できなかったことを □転倒等の防止、安 □動作の容易性の確 □利用者の精神的負 □介護者の負担の軽 □その他（	
その他の活動			□できなかったことを □転倒等の防止、安 □動作の容易性の確 □利用者の精神的負 □介護者の負担の軽 □その他（	

現状の改善を必要とする動作についてチェックする。
今回、改修の対象でない項目にはチェックする必要はない。

生活動作で困っていること、問題点について、その状況や介護の現状を具体的に記述する。

・改修案の検討の際は全ての行為についてチェックが必要だが、理由書では改善しようとする行為に限定したコメントでよい。
・生活のどの場面、どの動作が利用者や介助者にとって大変なのか、動作の流れに沿って一つずつ見極めること。寝たきりならば「座位が保てるか」、歩行ができれば「段差を越えられるか」などについても記入する。
・①の評価と②のコメントの両方を合わせて利用者の状況が伝わるようにする。
・移動について各行為（排泄・入浴・外出）に共通する内容は、たとえば「排泄」の欄のみに記入し、各行為の欄に重複して記入する必要はない。

①、②を記入し、現状の問題点を踏まえた上で、改修目的の項目をチェックする。
各行為の困難事項を改善するために、どのような改修を行うのか、その方針を記述する。

・改善方法は「手すり設置」や「段差解消」という表現ではなくてもよい。「つかまれる所を」「つまずかない工夫」「立ち上がりの支えを」などの表現でもよい。
・一つの改修項目が複数の目的のために行われる場合はまとめて記述してもよい。
・具体的手段については当事者はもちろん、施工者や専門家と一緒に考えることが望ましい。

様々な角度から検討し、決定された改修内容の項目をチェックし、詳細な内容を記述する。
改修箇所は場所ではなく、「手すり」なら「便器横壁面」等その取付箇所まで記述する。